「防災」を通じて、周辺住民と繋がりを築き いざという時に助け合える関係づくりを！

今回は神奈川県が、令和元年度に発行した笑いあふれるコミュニティ ～キーパーソンを訪ねて～ の中から、神奈川県海老名市の自治会活動について紹介します。

災害現場で被災者が 我慢を強いられる環境を解決したい！

海老名市自治会連絡協議会の山本さんは、番組制作会社勤務時代に災害問題等に携わる中で、防災への意識が強く生まれました。

東日本大震災後、すぐさま行った被災地で、見たり聞いたりした情報（仮設トイレ問題等）を活かして対策できないかと考えるようになりました。

防災で地域を繋ぐ！

山本さんが住む大型マンションの建設は、周辺住民からは地域環境の変化を懸念する声が上り、マンション建設に好意的ではありませんでした。

しかし、山本さんは、地域共通の課題である「防災」を通じて、関係性を築けないかと考えるようになりました。災害発生時に近所の方々の避難施設として、マンションを利用できれば、周辺住民とマンション住民との交流が生まれるのではないかと考えたのです。

避難施設にするために協定を締結！

市と自治会連絡協議会でマンションを避難施設として利用する協定を結び、これにより、受け入れ側のマンションに余裕があれば、周辺住民がそのマンションに避難することができるようになりました。協定の締結がきっかけで、周辺の自治会とも合同防災訓練やイベントの合同開催等を行い住民同士の新たなコミュニティが生まれました。

市内の他のマンションも最初は避難施設としての利用に難色を示していましたが、今では市内のマンション単独自治会は全て協定に加盟し、災害時に助け合える関係が築けています。

防災で自治会と会員を繋ぐ！

自治会長に防災備蓄品をどこで購入したら良いかという相談があり、防災用品のカタログを自治会員に配布し、希望者が購入できる仕組みをつくったところ、住民から喜びの声があがり、自治会長も「自治会加入のメリット」を示すことができました。「不安は誰もが一緒です！」寄り添えたことで、住民も安心したのかもしれませんね。

災害がいつ起きてもおかしくない状況の中で、日頃からの備えが大切になります。高齢化が進み、遠くの避難所へ行くのが難しい方も多くいます。そんな中で近くのマンションに避難ができるのは大変ありがたいことです。平時から、周りの自治会との連携を取るのも大切ですね！私が勤務する西部福祉センターでも、平時から近隣自治会と合同防災訓練をさせていただいております。（コロナ禍で休止中）自治会同士のつながりが、住民の新たなコミュニティとして生まれるキッカケにもなります。

ぜひ、自治会同士の繋がり、改めて見直してみてはいかがでしょうか。

引用：令和元年度に発行笑いあふれるコミュニティ ～キーパーソンを訪ねて～
https://www.pref.kanagawa.jp/documents/57429/05_zichikai.pdf

問合せ　我孫子市社会福祉協議会（西部福祉センター）担 当：山﨑　　電 話：０４－７１８５－５８１８